

SJCD international

2nd Joint Meeting



2008年
SJCDインターナショナル
合同例会in熊本

p r o g r a m

SJCD
SOCIETY OF JAPAN CLINICAL DENTISTRY

《2008年SJCD合同例会開催にあたって》



皆様いかがお過ごしでしょうか？

さて、今年7月熊本で第2回S J C D国際主催の第2回合同例会を行う事となりました。第1回の北海道の熱気が火の国熊本で更にヒートアップしそうな予感がします。

全国S J C Dの会員皆様のふるっの御参加をお願いします。

この例会では、まさにS J C Dの原点とも言うべきケースプレゼンテーションを各支部の代表者に行ってもらいます。全国の会員による熱いディスカッションが行われ有意義な2日間となることを熱望しています。

S J C D国際ナショナル会長 **山崎 長郎**



熊本SJCD発足10周年の記念すべき2008年にSJCD合同例会を火の国熊本で開催することになりました。

熊本とSJCDとのつながりは深く、山崎先生と私が東京歯科大学の先輩後輩の関係上、熊本SJCD発足前の1988年以来20年にわたって山崎先生はじめ西川先生、茂野先生から熱心にご指導いただきました。

1991年のUSC研修に熊本から初めて参加し、今は亡きSJCDの生みの親であるレイモンドキム先生の自宅にお邪魔して先生の人間性の素晴らしさに触れたことが忘れられません。そのキム先生から10年前に熊本SJCDの発足を強く薦められた経緯があり、今回熊本が一番暑い季節に、熱いプレゼンテーションとディスカッションが行なわれ、無事合同例会が成功裏に終わることを願ってやみません。

第2回 SJCD合同例会 in 熊本 大会会長 **添島 正和**

《タイムスケジュール》

7月19日(土)

13:00~13:30 開会式
13:30~15:00 コンベンショナル1~3
15:00~15:10 休憩
15:10~16:10 コンベンショナル4~5
16:10~16:30 休憩
16:30~17:30 インプラント1~2
19:00~21:00 懇親会

7月20日(日)

09:00~10:30 インプラント3~5
10:30~10:40 休憩
10:40~11:40 審美修復治療1~2
11:40~12:40 昼食
13:00~14:30 審美修復治療3~5
15:00~15:30 表彰式 閉会式

Coordinator

Theme-1 コンベンショナルレストレーション



木原敏裕先生

奈良県奈良市開業
SJCDインターナショナル常任理事



鈴木真名先生

東京都葛飾区開業
東京SJCD会長

Theme-2 インプラント治療



伊藤雄策先生

大阪府大阪市開業
SJCDインターナショナル常任理事



小濱忠一先生

福島県いわき市開業
SJCDインターナショナル常任理事

Theme-3 審美修復治療



土屋賢司先生

東京都千代田区開業
SJCDインターナショナル常任理事



南昌宏先生

大阪府大阪市開業
SJCDインターナショナル常任理事

土曜日13:30~14:00

《コンベンショナル-1》 **“審美性”を兼ね備えた前歯部修復の成功のための要件**
支台歯形成、クラウンカントゥア、舌側面形態についての一考察

坂口貴章

熊本県熊本市開業 熊本SJCD

座長：木原敏裕先生



私は、師と仰ぐ桑田正博先生より「歯冠修復は、患者がその存在を意識せずに違和感なく生活が営めるかどうか”要“である」すなわち「そこにあるべき姿をそこに再現することである」と教わりました。しかし、現実の臨床の現場を真摯に振り返って見た時に多くの問題点、矛盾点を抱えながら修復治療を続けている。

そこで私自身の一症例を振り返りながら

① 支台歯形成と修復物との関わり

最終修復物は支台歯形成により規定される

② 修復物と天然歯とのクラウンカントゥアの比較

最終修復物はその3次元断面を考慮することで天然歯に近似する

③ 適切な舌側面形態の付与

最終修復物、特に上顎前歯においては、唇側面はもちろん、舌側面の生物学的な形態を考慮する事で初めて機能的、構造的、審美的要素が満たされる

という3点に焦点を当てながら、上顎中切歯修復物の歯冠形態について検証する

また、修復物の唇舌的厚みを考慮するうえで重要となる、上顎中切歯の切縁から3.5mm部の唇舌幅径について天然歯653歯、修復歯205歯を独自の計測結果より見えてきたことを報告させていただきます。

天然歯の唇舌幅径は平均2.74mm、唇舌的に1.0mmのフルマージンで形成すれば支台歯幅径は0.74mmしかなくなり、レジスタンスフォームが不足してしまう。

西洋人における唇舌幅径と東洋人（日本人）の唇舌幅径の違いにより、修復治療の選択を考慮しなければならない。

土曜日14:00~14:30

《コンベンショナル-2》 **咬合高径の低下、下顎の偏位を改善するため**

咬合再構成を行った一症例

菊地 賢

宮城県仙台市開業 東北SJCD

座長：木原敏裕先生



日常の臨床において、エナメルエロージョンの症例に遭遇することがある。今回全顎的なエナメルエロージョンにより、咬合高径の低下、そして下顎の偏位が疑われ、全顎的な補綴治療が必要となり、咬合再構成を行ったところ、良好な結果を得たので報告する。

患者は25歳女性で、歯がしみて、うまく咬めない、カリエスによる審美的不満を訴えて来院した。

最初に適正な咬合位を設定するため、安静位空隙を考慮し前歯部で3mm咬合挙上し、オクルーガル・スプリントを装着した。その後プロビジョナルレストレーションにて観察、確認し、オールセラミッククラウン、メタルボンドクラウンにて最終補綴を行った。

咬合再構成において、プロビジョナルレストレーションは偏位した下顎を生理的な状態に戻し、咬合させ、咬合高径を設定する上で、いくつかの臨床的判断基準を観察することが重要な役割を果たすことを確認した。

土曜日14:30~15:00

《コンベンショナル-3》全顎的な視点に立って行った少数補綴歯の再治療

山根光雄

愛知県名古屋市開業 名古屋SJCD

座長：木原敏裕先生



患者を病的な状態から正常な状態へと改善することが、我々歯科医の仕事である。そのためには、生理的と病的の鑑別を行い過不足のない治療を行う必要がある。この目的のため、オリジナルのチェックリストを製作し、診断および治療をシステムティックに行い、良好な結果を得たので報告する。

患者は33歳の女性で、大臼歯の審美障害を主訴に来院。大臼歯2本、前歯1本に補綴処置が、大臼歯数本に修復処置がなされていた。診査により大臼歯部に早期接触が認められ、右側にクリック、そして補綴歯である第一大臼歯には磨滅が、また第二大臼歯にはファセットが認められた。

これらの症状は、補綴処置との因果関係が強く疑われた。再治療に際しチェックリストを使用し、生理的状态への回復を行った。MTM、歯周外科等の術式を用い、プロビジョナルにて審美性および機能の改善をし、再評価の後、最終補綴へと移行した。

このチェックリストを使用しての治療は、単独歯から多数歯にいたるまで、診断に有効な方法と思われる。

土曜日15:10~15:40

《コンベンショナル-4》全顎的に咬合崩壊した症例に対する中切歯の位置づけ

西 耕作

福岡県福岡市開業 福岡SJCD

座長：鈴木真名先生



複雑に咬合崩壊したケースでは、上顎中切歯の位置づけが治療の出発点として大切である。

総義歯の場合は自由度も大きく、そこで悩む事はあまりないが、有歯顎では制限も多くその位置づけに苦労することが多い。

一般的にモックアップ・プロビジョナルを用いて決定していくが、患者の声を第一に考えるとそこに我々が考える機能、審美的位置づけとのズレが生じる場合がある。

今回は、45才の女性で右上側切歯・犬歯部欠損でPDが入り審美的障害で来院された患者へインプラント2本を埋入して全顎的な補綴処置を行った。

まず、中心位にてバイトを採得し、咬合高径を決定していく。ブラキサーということもあり、咬合が低下している為、もとの位置に回復させる。

前歯部で約2mm挙上して、ワックスアップを行い、そこから前歯部モックアップを作成し、見た目、発音、嚥下の確認をし治療を開始した。

最終的プロビジョナルにて咬合関係、中切歯の位置を決定するが、結果として切縁の長さに関しては患者の希望にて常に手を加えなければならなかった。

最終補綴物には患者の満足度は高かったが術者としては疑問点が残る結果となった。

前回の反省点を活かし現在は客観的に3次元的評価が可能なKois Dento Facial Analyzer Systemとゴールドルーラーを用いる事で技工士、患者に納得いくプランニングが出来るようになってきた。

今回、2つの症例を提示しその有用性を比較検討していただきたい。

土曜日15:40~16:10

《コンベンショナル-5》 **審美的、機能的コンプレックスに対する
全顎的アプローチ**

照屋 えりこ 北海道札幌市勤務 北海道SJCD

座長：鈴木真名先生



2007年度東京SJCDレギュラーコース(1月生)を受講し、インターディシプリナリー・アプローチ いわゆるインプラント、GBR、審美などを含む歯周・外科・矯正・補綴などの治療技術を専門的に連携させて、一口腔単位を総合的に捕らえながら治療ゴールを目指すというSJCDのコンセプトを学びました。今回発表する症例は、レギュラーコース受講中に来院された患者さんで初診時からSJCDで学んだ治療の流れを遵守し全顎的治療を行ったケースです。

患者は初診時27歳の女性、右側上顎第一大臼歯の拍動痛を主訴として来院されました。現症として右側上顎第一大臼歯の自発痛、不適合補綴物、全顎的な歯肉炎、アンテリアオープンバイト、顎位の偏位が認められました。応急処置後、患者自身が現存修復物に対して審美的不満、機能的不満を訴え改善を希望していたことから全顎的な治療へと移行しました。問題点の抽出により、長い期間に渡り繰り返し行われた不適合補綴物によって惹起された様々な問題が明らかになりました。これに対し、歯周基本治療、歯周外科、インプラント治療、その後の咬合再構成にて全顎的修復を行い審美的かつ機能的問題の解決を行いました。術後現在まで良好に経過し、口腔内の安定が図られていることから今回その経緯を報告したいと思います。

土曜日16:30~17:00

《インプラント-1》 **上下顎骨の骨吸収とインプラント修復治療の可能性**

武井賢郎 長野県千曲市開業 新潟SJCD

座長：伊藤雄策先生



重度の口腔崩壊症例を健康的に機能回復する場合、疾病が発症した原因を詳細に審査し、治療に必要なあらゆる生体の情報を得て修復治療が行われる。経験学的な模索による対応では共通項のない処置方針で場当たりの治療に陥りやすい。現在、飛躍的に進歩するIT機器を応用する事は当然有効であるが、担当者としての見識も無いまま、機器に頼りすぎた治療がなされるとしたならば、医療担当者としての自負もなくなる、これらの先端機器の必要性と優位性を発揮させ、修復治療を行う個々の学識が問われる。

標榜した症例は43歳の女性、上下顎臼歯部欠損により顎位が低下し、咬合が不安定となり、上顎前歯の著しいフレーアウトによるⅡ級を呈していた。歯牙欠損部は、長期間局部床義歯を装着したことにより著しい歯槽骨吸収で、咬合力を負担することが困難な顎堤の状態である。残存歯牙の全てにも問題があり、放置することで重なる病状の悪化が予想され、年齢も考慮すると早期に治療介入が必要であった。フルマウスリコンストラクションをしなければならないが、解剖学的、機能的、審美的情報が殆ど喪失してしまっている大変複雑な症例である。

フェースアナライザーの使用により顔面の審美情報を、咬合器の基準値に従って作製したメタルプロビジョナルにより機能情報を、CTを用いることで解剖学的情報を収集したが、これらはいくまで再構築していく一定の基準にしかすぎない。そこから患者固有の機能や審美を導き出していくことで歯科治療の目標の一つである長期にわたる歯列の保全が得られる。一連の治療の経過を報告する。

土曜日17:00~17:30

《インプラント-2》MTM・インプラントを行いFull mouth reconstructionを行った一症例

小坂井 満 富山県砺波市開業 北陸SJCD

座長：伊藤雄策先生



都心部と違い、地方ではまだまだ口腔内が崩壊し全顎的なアプローチをする必要があることが少なくない。今回SJCDのコンセプトに基づき診査診断からFinalまでをStep by Stepで行い、全顎的な対処を行ったケースを報告する。

患者は48歳女性。右側上下顎の補綴物脱離を主訴に来院した。全顎的な不良補綴物により咬合崩壊を起こしており、根管治療の不備によるエンドリージョンも存在していた。

治療方法としては、上顎前歯部は骨量不足のためブリッジにて対応し、臼歯部に関しては適切な咬合支持の付与をインプラントにて行うこととした。下顎前歯部には叢生がみられ、MTMにて歯列不正の改善を行うこととした。

術前から上顎は全て補綴してあり、適切な顎位が分からない状態に対して、診断用WAX UPを複製しプロビジョナルレストレーションにて経過を見ながらFinalに移行した。また根管治療、MTMを行い極力歯牙の保存に努め、機能的、審美的な改善を行った。

日曜日09:00~09:30

《インプラント-3》Consideration of esthetics in case of multiple implants

松本邦夫

東京都世田谷区開業 東京SJCD

座長：小濱忠一先生



審美領域における連続歯欠損をインプラント修復する場合、術後の歯肉ラインの連続性や歯間乳頭の形態などに問題を抱えてしまう場合が多く見受けられる。補綴設計においては構造力学的な配慮と共に、解剖学的な問題・歯槽骨及び軟組織の、形態・幅・高さ、咬合関係などを考慮しインプラントポジションを決定する必要がある。

患者は61歳男性、左上2番の動揺を主訴に来院した。当該歯は保存不可能と診断し抜歯に至った。7、8年前に抜歯された両中切歯の部分と合わせて固定性の修復物を希望されたため、右上1番から左上2番の3歯連続欠損のインプラント修復治療を提案し、診査・診断をおこなった。診断用Wax-upより既存の前歯の幅径のバランスでは左上2番の遠心に大きな空隙を作ってしまうことを確認し、患者と相談の結果BPRSを用い6前歯の修復治療をおこなうこととなった。

前歯3歯連続欠損にあたり上顎中切歯部に並列にインプラント修復することは、歯間乳頭の温存及びシンメトリックなスキャロップラインを作り出すことが難しいため術後の審美性を考えるとできれば避けたい処置と考える。これはTarnow、Salama、Garberらの論文からの根拠に基づく。しかしながら、側切歯に対しGBRをおこないナローなインプラントでブリッジワークをおこなう事も審美性を考慮した際、決して簡単ではない。このケースにおいてはインプラント-インプラント間を4mm離すことが出来るため、中切歯並列インプラント修復を適応する方が審美性を獲得しやすいと判断し遠心カンチレバーポンティックの補綴設計とした。

今回の症例では、インプラント間は歯間乳頭様軟組織で満たされスキャロップラインもシンメトリックに仕上がり高い審美性が獲得できた。今回の成功は、両中切歯の欠損部顎堤の条件がよくさらに歯列弓が大きいことがあげられる。また外科処置や各ステップにおいて軟組織に対し侵襲を与えないこと、術中の軟組織の形態維持の為の配慮や、インプラント周囲に十分な歯肉のボリュームを与えられたことも大きい。

《インプラント-4》 **臼歯部咬合崩壊を伴う歯周病患者において
治療咬合を与えた1症例**

平山富興

大阪府大阪狭山市勤務 大阪SJCD

座長：小濱忠一先生



近年、欠損が絡んだ複雑な症例に対して、インプラントや骨再生療法等によって、より予知性の高い治療計画が立案出来るようになってきた。しかしながら、あまりにも多くの情報が氾濫し、自身の臨床において、どのように応用したら良いか悩む事も多い。

ましてや、歯周病に罹患した口腔内であれば、抜歯の基準を含め、より慎重な診査・診断が求められ、残存歯に対してどのような処置を行い、欠損補綴を行っていくかが重要になってくると思われる。

今回は、欠損を伴う臼歯部咬合崩壊の歯周病患者に、多数歯欠損にはインプラント治療を選択し、保存可能と判断した残存歯に関しては歯周治療による炎症の抑制を行い、治療咬合を与えた結果、良好に経過している症例を報告し御指導を頂きたいと思う。

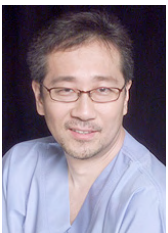
患者は70歳の男性で「良く噛めなくて食事がしづらい。歯がしみる。」という事を主訴に来院した。保存不可能な歯を抜歯後、上顎は前歯を除いて、右側第二小臼歯の戦略的抜歯を考慮した上で、左右臼歯部にそれぞれオステオーム・テクニックとサイナス・リフトを応用しインプラントを4本ずつ植立した。残存歯に関しては下顎大臼歯部の歯根分割を含む歯周外科により炎症の抑制を行った後、プロビジョナルを用いて治療咬合を与えると伴に、慎重にブリッジのスプリンティング・デザインを模索した。現在、治療後2年であるがメンテナンスにおいて問題もなく、良好な咀嚼運動が出来る状態であり、治療結果に対する考察とともに報告させて頂きたい。

《インプラント-5》 **有歯顎と無歯顎におけるインプラント治療の考え方**

高田浩行

福岡県久留米市開業 福岡SJCD

座長：小濱忠一先生



インプラント治療を始めて15年、当初のころは一本から始め徐々に複数本のインプラント治療が可能となり最近では無歯顎に対するインプラント補綴が多くなってきた。歯のある状態から無歯顎になるケースや最初から無歯顎で治療を始めなければならないケースなど様々な様相と呈していることが多いが一言に無歯顎インプラントととってもケースによってその対応に変化をもたせることが重要であり、インプラントを使用した補綴の適応症がどのようになるのかを見極めた上で設計をたてることが重要である。

今回は、有歯顎から無歯顎までのケースを3つのパターンで分類し、それぞれに対する考え方と対応法について考察してみたい。

Clinical Guidelines for Complex Implant-Restorative Patient

- * Single tooth Implant
- * Multiple teeth Implant
- * Full edentulous Implant

日曜日10:40~11:10

《審美修復治療-1》 Conventional Prosthetic Restorations

高橋耕三

愛媛県西条市開業 四国SJCD

座長：土屋賢司先生



患者は74歳、女性、インレーの脱離を主訴として来院された。咀嚼機能不全の改善、前歯部の審美的要求などから、診査・診断の結果、全顎的歯冠修復治療を施すことになった。

治療計画にそって十分に時間をかけたプロビジョナルレストレーション、接着性レジン支台築造、フェールールエフェクトを考慮したクラウンプレパレーション、BPRsなど系統立てて慎重に治療をすすめた。

また、歯冠修復物はオールセラミッククラウンと、Dr.Pascal MagneのBiomimetic principleの考えを支持しポーセレンラミネートベニアを主とした。

日々Updateされる様々なマテリアルやプロダクト、新たなスキルやHow toの習得により修復物はより審美性に優れてきているが、診査・診断、治療計画、および修復治療、それらの目的や本質が大きく変化することはないと感じる。

本症例では、オクルーザリリコンストラクションに加え、メタルフリーレストレーションによる修復治療の結果、患者は咀嚼機能、審美性ともに満足を得ている。

診査・診断、治療計画に基づいた基本的な歯冠修復治療の一症例を提示したい。

日曜日11:10~11:40

《審美修復治療-2》 Esthetic Rehabilitation case～審美と機能の回復～

米澤大地

兵庫県西宮市開業 大阪SJCD

座長：土屋賢司先生



セラミックレストレーションなどを駆使して良好なスマイルを得る審美治療の中で、とりわけ今回は顎顔面から考える審美的バランスを重視して、機能と調和させることを目的とした一症例です。

患者は62才女性。前歯部審美障害で来院されました。生まれつきある重度の顎顔面変形症に加えて、審美的障害の一因ともなっている病的な顎偏位に対する、外科矯正治療を含む咬合治療、審美的改善を含めての歯周治療、欠損歯列に対するインプラント治療など、包括的診断が必要な症例で、矯正治療なしにどのように機能的、審美的改善を行ったかを提示します。

また、その際、診査・診断の一環としてMauro Fradeaniの提唱する審美分析の一部を中心に矯正学的な考えも含めて私の考える分析を術前後に評価を行った結果、良好な結果を得たと考えましたので報告し、皆様の評価をいただきたいと思います。

《審美修復治療-3》 審美分析に基づいた前歯部オールセラミック修復

脇 宗弘

大阪府大阪市開業 京都SJCD

座長：土屋賢司先生



1980年代後半に、フルクラウンと比較して歯質削除量を可及的に抑制することができる修復治療であるポーセレンラミネートベニアという修復治療が登場した。

2000年以降は、接着材料の進歩やバイオメカニカルアプローチの研究成果により従来よりも臨床において多用するに値する修復治療方法として考えられるようになってきた。

メタルを用いない修復物故、優れた光学特性を持ち審美性の獲得においても大きなアドバンテージを持つこととなった。それに伴い患者側だけでなく術者側にも高い審美性を求める欲求が生まれることとなった。

今回のプレゼンテーションでは、前歯部が齶蝕による変色を伴う叢生歯列に対し審美障害を主訴として来院された30歳の女性の患者にエンプレスシステムのラミネートベニアとクラウンを用いて上顎4前歯の修復治療を行った症例について報告する。

叢生歯列に関しては、矯正治療を選択しない治療方針のため修復必要部位の歯冠幅径の総和を変えることができない条件下において、歯牙形態の是正をワックスアップにて変更可能な限界を探り、色調障害に関しては、元の支台歯色を反影しながら表層エナメルにセラミクスを使用することで改善することができた。

患者が望むことの背景にある美意識を客観的に定量化する審美分析を基にする診断、イメージする治療ゴールを具現化するために必要なスキル、使用材料に対する理解やその選択基準について今となっては一般的とも言える治療の流れではあるが、ステップバイステップを確実にを行い再評価しながら次にすすめていくことの大切さを実感させられた症例を通じて考えを述べてみたい。

日曜日13:30~14:00

《審美修復治療-4》 審美治療における補綴前処置を考える

瀬戸 延泰

神奈川県横浜市開業 東京SJCD

座長：南 昌宏先生



今日、前歯部修復治療においては患者の審美的要求がますます高まっており、それに伴い修復材料も著しい発展を見せている。修復材料の審美的特性を十分に発揮し患者さんの満足を得るためには、単純に材料の理解と適切な支台歯形成だけを必要とするケースもあれば、それ以前の処置として多少の改善が必要となるケースもある。

今回は補綴前処置として歯周外科を行い、補綴物と周囲組織との審美的調和の獲得を目指した症例を呈示したい。

患者は58歳女性、初診が2003年10月、臼歯欠損部の補綴を主訴に来院された。

下顎左側の第2小臼歯および第1大臼歯と右側第1大臼歯が欠損しており、下顎右側第2大臼歯は歯根破折の為保存不可能と判断した。患者は固定性の補綴物を希望されたため、同欠損部にはインプラント治療を実施した。ペリオ的にはとくに大きな問題は存在しないが、歯肉退縮が進んで、かなりのオーバーブラッシングであったことが診査されたため、改善するように努めた。咬合関係は左右側ともに一級関係で咬合高径およびアンテリオガイダンスも適切に維持されており、また顎関節にも異常を認めないため、できる限り現在の咬合状態を維持することに努めるべきケースである。臼歯部の補綴治療終了後、患者は上顎前歯部の黄ばんだ色調と歯間空隙の存在、そして長すぎる歯に対する不満を訴え、もっと若々しく見せたいという、口元のアンチエイジングを希望された。歯肉退縮の原因としては形態的な要因に悪果因子が加わることによって発症するといわれている。そこで今回は補綴前処置を伴う修復治療によって患者の要望に対する改善を行った。

日曜日14:00~14:30

**《審美修復治療-5》 叢生歯列に対する治療計画の立案—叢生歯列の問題点
と患者とのやりとりを踏まえて****川口 孝**

熊本県熊本市開業 熊本SJCD

座長：南 昌宏先生



歯科医院に通院する患者に叢生歯列を認めることは少なくない。矯正治療の観点から、骨格型の問題があれば、患者にその問題点を指摘することは容易であるが、単に歯列のみの叢生の場合、患者の問題意識を想起することも難しく、叢生歯列により起こりうる、機能と審美的な問題や、メンテナンスに支障を来す問題などを理解してもらうことが難しい。そればかりか、これまでの通院既往歴で、歯列不正の説明を受けたことがない患者がかなりの数に登ることに驚きを覚えることもたまさかではない。

そのような叢生歯列に対しては、本来、矯正治療のアプローチを行うことは当然である。しかしながら、成人における叢生治療では、その解剖学的問題や治療期間、患者の得心度、などの問題から、修復治療のみで治療を終了させることも多々経験する。

また、矯正治療と修復治療を組み合わせることもある。いずれの治療を選択するにしても、術後の咬合管理、歯周環境のメンテナンスには難点を残すこともあるが、リコール・メンテナンス時のこれらの処置は不可欠である。

今回、27歳男性の上下顎前歯部叢生患者については矯正治療及びインプラント、歯冠修復治療を行い、20歳女性の上下顎前歯部叢生患者については矯正治療のみで治療を完了した。これら二症例について、修復治療、治療期間の短縮、メンテナンスの容易性の三つの観点から考察を加え発表したいと思う。

m e m o

Kumamoto S J C D



10周年記念

ごあいさつ



早いもので熊本S J C Dを発足して10年が経過します。これもS J C Dインターナショナル会長山崎長郎先生をはじめ、顧問の茂野啓二先生、西川義昌先生のご指導があったればこそと、会員一同深く感謝しております。

熊本S J C Dは、最高顧問である添島正和先生（初代～3代会長）に、レイモンド・キム先生より「熊本に支部を作り、自らの研鑽とともに後進の指導を行うべく情報の発信をも熊本からするべきである。」という強い要望のもとに、熊本の発足会員が幾度となく話し合い1999年に発足しました。

発足当初、どのようなスタイルのスタディーグループにするものか、添島正和先生、川崎俊明先生と私を中心に理事の先生たちで考えました。まず、目的を決めようということになり、「合同例会で発表できる若手を育てる」としました。そのためには、「毎月例会を行い、会員がディスカッションできる場を数多くつくる必要がある。」という意見が強く出ました。10年の間、月一回の理事会と例会を合わせると、200回以上集まりました。勉強し、議論し、大変なことも多々ありました。しかし、その度にスタディーグループのレベルは上がり、信頼関係も高まりました。

その結果、今回の合同例会に若い先生である川口孝先生、坂口貴章先生が発表することになり、成果を出すことができたのではないかと感じています。また、両先生に続く先生も数多く育っています。今後も、現在のスタイルを守りつつ、目的を達成すべく研鑽をしていくつもりです。

今後もインターナショナルをはじめ、各支部の先生方にご指導していただきながら、さらなるレベルアップを図りたいと思います。

熊本SJCD会長 吉永 修

熊本 S J C D の 活 動

🌟 例会（毎月第4火曜）

毎月第4火曜日19時30分より、熊本市京塚本町の平和会添島歯科クリニックにて例会を開催しております。例会では2名の会員がケースプレゼンテーションを行い、それに対して全員でディスカッションを行います。座長は理事が順番に担当し、抄録の作成から予演会での指導、プレゼンテーションのアドバイスまで細かく指導いたします。症例発表は強制されることはなく、あくまでも希望者であり、毎年4月に発表者とスケジュールを調整し、年間予定を決定するシステムです。歯科医師だけではなく、歯科技工士や歯科衛生士も一緒になってプレゼンテーションやディスカッションを熱く展開しています。毎月多くの会員が参加し、座長の進行にしたがって活発なディスカッションが展開され、日常臨床に多くのヒントと方向性をもたらしていると評価を得ています。



🌟 インサービストレーニング

毎年1月または2月に会員向けの講演会を企画しています。2007年1月22日には顧問の茂野啓示先生（京都市ご開業、SJCDインターナショナル常任理事）をお迎えしての講演会を熊本県歯科医師会館ホールにて開催いたしました。2008年2月には山崎長郎先生をお迎えしてのトレーニングを盛大に開催。会員のみならず所属する勤務先のスタッフも参加できるセミナーです。



🌟 オープンセミナー

毎年1回は会員外の先生方も広くご参加いただけるオープンセミナーを開催しております。2007年7月15日には初の会員による講演会として、添島正和最高顧問を講師として「必要最低限で十分な咬合治療の診査と診断のキーポイント」を開催し、120名の参加者でエキサイティングなイベントとなりました。



🌟 スペシャルイベント

2006年12月2日（土）、3日（日）の両日、冬の京都にて当会顧問の茂野啓示先生プロデュースによる熊本S.J.C.D.スペシャルイベントが開催しました。土曜日は桑田正博先生（愛歯技工専門学校校長）をお迎えしての熊本S.J.C.D.会員による症例検討会を株式会社モリタ京都支店にて行いました。桑田先生と茂野先生による鋭いコメントに今後の研鑽の方向性を見いだした貴重な機会となりました。



🌟 コミュニケーション

大勢の会員同士が、よりスムーズなコミュニケーションをもとに真摯で活発な勉強を継続できるよう、折に触れさまざまな形で友情の輪を広げています。S.J.C.D.インターナショナルのネットワークを通じて、お互いの患者を紹介したり、多様な情報交換をしたり・・・その輪はグローバルに広がっていきます。右の写真は毎月の例会後に近くの居酒屋で開催している食事会の様子です。ほかにゴルフコンペなども企画しています。



これまでの歩み～セミナー

🏆 インサービス & オープンセミナー

年度	演者	所属	演題
1999	山崎長郎	原宿デンタルオフィス	現代の修復治療
2000	湯毛昭人	バイオテック	ドクターとテクニシャンとの整合性を求めて
	土屋賢司	土屋歯科クリニック	治療を成功に導くための基本的ガイド
2001	茂野啓示	北山茂野歯科医院	審美修復治療における歯周組織の処置
	小濱忠一	小濱歯科医院	審美修復治療を成功に導くための治療概念とその対応方法
2002	茂野啓示	北山茂野歯科医院	SJCDの現在・過去・未来
	西川義昌	代々木上原デンタルオフィス	スタンダードな治療のための基準
2003	茂野啓示	北山茂野歯科医院	この5年間のコンセプトの変化
	井出芳信	東京歯科大学教授	歯科臨床のための解剖学
2004	茂野啓示	北山茂野歯科医院	S.J.C.D.の原点に還る
	添島義和	添島歯科医院	ITIインプラントが歯科を変えた、私を変えた
2005	茂野啓示	北山茂野歯科医院	公開 症例検討会
	茂野啓示	北山茂野歯科医院	新 一から学ぶ歯周外科の手技」出版記念
2006	茂野啓示	北山茂野歯科医院	修復治療の昨日今日明日Part2
2007	添島正和	添島歯科クリニック	必要最低限で十分な咬合治療の診査と診断のキーポイント
2008	山崎長郎	原宿デンタルオフィス	最新の審美・インプラント治療

(敬称略)



これまでの歩み～例会記録

1999年（第1期）

月	発表者	勤務先	演題
1	添島正和	添島歯科クリニック	咬合治療における診断の重要性と術後経過
2	立山由乗 一瀬順輔	立山歯科医院 一瀬歯科医院	中間欠損にインプラントを用いた症例 私のEndoの臨床に対する考え方（抜髄根管と感染根管の違いについて）
3	鮫田誠也 井上裕邦	鮫田歯科医院 井上歯科クリニック	根管充填におけるパーティカルとラテラルの比較について 重度歯周病における咬合再構成と補綴設計

2000年（第2期）

月	発表者	勤務先	演題
4	川崎俊明	川崎歯科医院	前歯部被蓋関係の処理に苦慮した症例
5	松下哲也 石川大樹	松下歯科医院 もとき歯科医院	咬合崩壊に対するインプラント治療 上顎前歯失活歯1歯のラミネートベニア
6	添島義樹 吉永修	添島歯科医院 吉永歯科医院	義歯の人工歯摩耗にオクルーザルキャストで対応した症例 ホワイトニング
7	小島博文 大熊一徳	こじま歯科医院 おおくま歯科医院	フルマウス リコンストラクション 健康回復を考慮した咬合再構成
8	有吉洋 川口孝	ありよし歯科医院 立山歯科医院	長期経過症例に学ぶ 残存歯牙の処置に悩んだインプラント・ケース
9	吉永修 清水幹広	吉永歯科医院 清水歯科医院	審美 白歯部崩壊に伴う咬合再構成
10	森永博臣 佐藤俊一郎	森永歯科医院 佐藤歯科医院	上顎前歯部に抜歯即時インプラントを植立した症例 咬合再構成におけるアンテリア・ガイダンスの重要性
11	渡辺猛士 坂口貴章	渡辺歯科医院 坂口歯科クリニック	パーシャルデンチャーの安定を求めて 歯周補綴
1	細川孔 岩本知之	細川歯科医院 浜町歯科医院	色の再現 咬合再構成
2	長野靖弘 犬童寛治 松本隆博	長野歯科医院 犬童矯正歯科クリニック 株式会社愛歯	重度歯周炎における咬合再構成 補綴科との連携 ヨーロッパ研修からの報告
3	山部英則 堀洋一	山部歯科医院 ほりデンタルクリニック	一歯にこだわる インプラントにより咬合の安定をはかった症例

2001年（第3期）

月	発表者	勤務先	演題
4	添島正和	添島歯科クリニック	熊本S.J.C.D.への私見
5	伊藤明彦 前田英俊	伊藤歯科医院 前田歯科医院	Final restoration after 8year（術後8年症例の考察） Implant Anchored Orthodontics
6	川崎俊明 渡辺大助	川崎歯科医院 渡辺歯科医院	長期経過症例による反省と現在の傾向 エムドゲインを2年半応用して
7	細川孔 長野靖弘	細川歯科医院 長野歯科医院	白歯部咬合面形態 コンプリート・デンチャー～旧義歯を読む～
9	鶴田善久 三村彰吾	鶴田歯科医院 鮫田歯科医院	歯牙の再植 移植の経験 垂直性ブラキサーにおける審美性の回復
10	久木田昌隆 和田貞夫	久木田歯科医院 株式会社愛歯	Class2 白歯部崩壊症例に対する一考察 S.J.C.D.からの学び
11	徳田将徳 高橋伸介	立山歯科医院 立山歯科医院	上顎前歯部の審美性の回復 前歯部フレアーアウトへの対応
1	藤本博 松本隆博	藤本歯科医院 株式会社愛歯	軟組織の再構成 日常のポーセレンワークから
2	津田輝義 森永博臣	佐藤歯科クリニック 森永歯科医院	カップトレーを用いた精密印象法について 審美領域におけるインプラント手術、手技と留意点
3	吉永修 松下哲也	吉永歯科医院 松下歯科医院	フィクスチャーの選択 審美補綴の一症例

2002年（第4期）

月	発表者	勤務先	演題
4	添島正和	添島歯科クリニック	審美修復治療を達成するための条件～炎症のコントロールを中心に
5	有吉 洋	ありよし歯科医院	ファイナルレストレーションをイメージする
	一瀬順輔	一瀬歯科医院	旧義歯の改造により顎位を模索した症例
6	前田明浩	パール歯科医院	自分の症例を振り返っての反省と考察
7	吉永 修	吉永歯科医院	審美を考慮したインプラント補綴
	香月大二郎	立山歯科医院	初期治療
8	立山由乗	立山歯科医院	臼歯部咬合崩壊の解決法
	添島義樹	添島歯科医院	全顎的治療に即時荷重インプラントを 応用した症例
9	添島正和	添島歯科クリニック	長期経過症例の再評価
	川口 孝	川口歯科医院	上顎無歯顎症例に対するインプラント補綴
10	川崎俊明	川崎歯科医院	審美修復治療におけるマテリアルの考察
	大熊一徳	おおくま歯科医院	正中口蓋縫合を基準としたComplete Denture作製法
11	山部英則	山部歯科医院	歯周外科、再生療法、インプラント治療時等における骨膜の取り扱いとβ-TCPの応用
	清水幹広	清水歯科クリニック	咬合再構成
1	渡辺猛士	渡辺歯科医院	インプラント、上顎臼歯部に対するアプローチ
	池上富雄	池上矯正歯科クリニック	一般歯科医と矯正歯科医のよりよい関係を求めて
2	添島正和	添島歯科クリニック	総義歯問題点への対応（Occlusal surfaceを中心に）
	越智孝義	立山歯科医院	前歯部欠損にパーシャルデンチャーを用いた症例
3	坂口貴章	坂口歯科クリニック	Anterior guidanceの欠如によりPosterior bite collapseを呈した症例
	森永博臣	森永歯科医院	歯周補綴にインプラントを用いた一症例

2003年（第5期）

月	発表者	勤務先	演題
4	添島正和	添島歯科クリニック	基本講演
5	吉永 修	吉永歯科医院	インプラント治療前後の顎位の変化に関する検討
	藤本 博	藤本歯科医院	修復治療について考える
6	佐藤俊一郎	佐藤歯科医院	唇顎口蓋裂患者の前歯部カリエスに対しその対処に苦慮した症例
	長野靖弘	長野歯科医院	前歯部の審美修復処置
7	前田明浩	パール歯科クリニック	私の考える総合治療
	立山由乗	立山歯科医院	顔貌の回復（総義歯編）
8	犬童寛治	犬童矯正歯科クリニック	歯科臨床におけるチームアプローチの意味
	松下哲也	松下歯科医院	破壊進行型限局性歯周炎の一症例
9	犬童寛治	犬童矯正歯科クリニック	歯科臨床におけるチームアプローチの意味
	有吉 洋	ありよし歯科医院	私のチームアプローチ
10	犬童寛治	犬童矯正歯科クリニック	歯科臨床におけるチームアプローチの意味
	川崎俊明	川崎歯科医院	歯科臨床におけるチームアプローチの意味
11	森永博臣	森永歯科医院	上顎臼歯部におけるインプラントのアプローチ
	三村彰吾	鮫田歯科医院	審美修復における歯周組織のマネジメント
1	山部英則	山部歯科医院	抜歯即時インプラントについての一考察
	川口 孝	川口歯科医院	上顎前歯部におけるBPRs
2	池上富雄	池上矯正歯科クリニック	矯正治療におけるアンカレッジコントロールの新しい流れ
	関 喜英	添島歯科クリニック	コンポジットレジン修復
3	坂口貴章	坂口歯科クリニック	治療方針の決定に悩んだ一症例
	添島義樹	添島歯科医院	下顎両側遊離端欠損にインプラントを用いた一症例

2004年（第6期）

月	発表者	勤務先	演題
4	添島正和	添島歯科クリニック	50年経過症例を目指して
5	渡辺猛士	渡辺歯科医院	インプラント埋入に先立って自然挺出による歯槽堤改善を図った一症例
	長野靖弘	長野歯科医院	歯周補綴の一症例
6	吉永 修	吉永歯科医院	パノラマX-Rayを読む
	渡辺裕士	株式会社愛歯	下顎運動と咬合について
7	鶴田善久	鶴田歯科医院	歯牙移動を用いた楔状骨欠損の治験例
	山部英則	山部歯科医院	すれ違い咬合をインプラント補綴によって咬合再構成を行った症例
8	森永博臣	森永歯科医院	オクルーザル・アプライアンスを使ってみて何となく分かってきたCRの確認と診断用Wax Upの重要性
	佐藤俊一郎	佐藤歯科医院	当医院で行なっているインプラント
9	川崎俊明	川崎歯科医院	インプラント治療の基礎知識
	肘井啓一郎	森永歯科医院	歯内療法について
10	立山由乗	立山歯科医院	病院・診療所連携によるインプラント治療
	川口 孝	川口歯科医院	上顎多数歯欠損の1症例
11	坂口貴章	坂口歯科クリニック	Anterior Guidanceの欠如によりPosterior bite Collapseを呈した一症例
	一瀬順輔	一瀬歯科医院	永久充填の名に値するメタルインレーをめざして!
1	前田明浩	パール歯科医院	小児の咬合育成
	藤本 博	藤本歯科医院	歯肉縁下カリエスに対し歯冠長増大手術を行い保存を試みた一症例
2	関 喜英	添島歯科クリニック	失敗症例に学ぶ～医原性疾患を防ぐために
	松下哲也	松下歯科医院	歯周治療の一症例
3	池上富雄	池上矯正歯科クリニック	口腔内診査の要点とその臨床的意義
	添島義樹	添島歯科医院	上顎前歯部抜歯即時埋入でインプラント補綴を行った一症例

2005年（第7期）

月	発表者	勤務先	演題
5	吉永 修	吉永歯科医院	オクルージョンを考える
	森永博臣	森永歯科医院	当医院で行なっているインプラント治療
6	長野靖弘	長野歯科医院	クラウンの適合性
	三村彰吾	鮫田歯科医院	旧義歯を参考にした総義歯治療
7	川崎俊明	川崎歯科医院	インプラントの適応症の拡大における新しいコンセプト
	渡辺猛士	渡辺歯科医院	3D CT解析ソフトの紹介
8	立山由乗	立山歯科医院	複雑な解剖学的問題を解決したインプラント修復治療
	川口 孝	川口歯科医院	歯周炎4症例
9	山部英則	山部歯科医院	臼歯部の崩壊をきたした患者に咬合の再構成を行った症例
	金藤 寿	立山歯科医院	正中矢状面を最重要基準としたコンプリート デンチャー
	一瀬順輔	一瀬歯科医院	コンプリートデンチャーの一症例
10	津田佳輝	佐藤歯科医院	プロビジョナルレストレーションの症例に応じた作製法
	佐藤俊一郎	佐藤歯科医院	治療ゴールに到達できず反省する点が多かった症例
	緒方優一	上通緒方歯科医院	ホームホワイトニングの一症例
11	松下哲也	松下歯科医院	歯科矯正医との連携
	佐藤 晃	立山歯科医院	コミュニケーションの突破口
	添島義樹	添島歯科医院	上顎単独歯欠損に骨移植とGBRを併用しインプラントを植立した一症例
1	前田明浩	パール歯科医院	患者様の望むインプラント治療」及び、インプラント上部構造装着前後における咬合接触面積と咬合力の変化について
	高田宗秀	立山歯科医院	垂直加圧を用いた根管治療について
	宮崎洋介	みすみ歯科クリニック	高齢者に対して抜歯後即時埋入を行った一症例
2	関 喜英	せき歯科クリニック	審美修復治療
	栗原健一	栗原歯科医院	外傷性咬合により歯周病が進行した方に対する歯周病治療の一症例
	池上富雄	池上矯正歯科クリニック	当院で開発した新しい矯正治療システム：Hybrid Orthodontic Treatment System (HOTS) について
3	坂口貴章	坂口歯科クリニック	Posterior bite collapseを呈した症例にP.D.とBridgeで対応した一症例
	鶴田善久	鶴田歯科医院	診断用ワックスアップの重要性について考える

2006年（第8期）

月	発表者	勤務先	演題
4	吉永 修	吉永歯科医院	S.J.C.D.の基本
5	森永博臣	森永歯科医院	インプラントを成功させるためのkey word
	三村彰吾	鮫田歯科医院	インプラントを用いて咬合回復した一症例
6	添島正和	添島歯科クリニック	長期経過症例から見た修復治療後のトラブルとその対応
7	川口孝	川口歯科医院	Short Implant の可能性
	松下哲也	松下歯科医院	下顎臼歯部欠損にインプラントを応用した症例
8	宮崎洋介	みすみ歯科クリニック	臼歯部インプラント補綴により咬合の再構成をしようとしている1症例
	立山由乗	立山歯科医院	CTを利用した上顎骨再生治療
9	鮫田誠也	鮫田歯科医院	歯周病の5年症例
	添島義樹	添島歯科医院	パーシャルデンチャーからインプラント支台のオーバーデンチャーへと移行した症例
10	渡辺裕士	株式会社愛歯	咬合器着着と歯列構築
	佐藤俊一郎	佐藤歯科クリニック	インプラントによる咬合再構成症例 ～チームアプローチの重要性を考える～
	栗原健一	栗原歯科医院	下顎遊離端欠損症例にインプラントを応用し パーチカルストップの確立を目指した症例
11	山部英則	山部歯科医院	歯科医療に対し強い不信任をもつ患者に対し、矯正医との連携にて修復治療を行ったケース
	渡辺猛士	渡辺歯科医院	抜歯即時埋入と抜歯待時埋入その適応と利点について
1	川崎俊明	川崎歯科医院	インプラント治療の経過と考察
	前田昭浩	パール歯科クリニック	磁性アタッチメントを用いたインプラントオーバーデンチャーの1症例
2	池上富雄	池上矯正歯科クリニック	Hybrid Orthodontic Treatment System (HOTS) について
	関 喜英	せき歯科クリニック	矯正治療後の制限下における前歯部修復
3	坂口貴章	坂口歯科クリニック	支台歯形成とCrown countour Back to the Basic 1歯にこだわる
	鶴田善久	鶴田歯科医院	上顎中切歯の審美性を考慮した一症例

2007年（第9期）

月	発表者	勤務先	演題
4	吉永 修	吉永歯科医院	Flapless surgery for patient comfort
5	森永博臣	森永歯科医院	少数歯残存に対し、インプラントを応用し咬合回復を行った一症例
	三村彰吾	鮫田歯科医院	治療後5年して崩壊してきている1症例
6	川口 孝	川口歯科医院	Approaches for crowded teeth
	松下哲也	松下歯科医院	歯周治療の一症例
7	有吉史郎	吉永歯科医院	生理的に調和したOcclusal Contact を付与した一症例
	渡辺裕士	株式会社愛歯	オクルーザルメタルにおける、私の“デュプリケートテクニック”
8	川崎俊明	川崎歯科医院	implant治療を成功させるために～診査・診断と治療計画
	園木 誠	そのき歯科医院	上顎前歯部のimplant症例
9	鮫田誠也	鮫田歯科医院	『垂直性歯根破折の臨床的観察と今後の対策』 当院での抜歯に至った症例を分析してみても
	添島義樹	添島歯科医院	全顎的修復治療にジルコニアを用いた一症例
10	佐藤俊一郎	佐藤歯科クリニック	診断・治療計画と再評価に苦慮した一症例
	栗原健一	栗原歯科医院	前歯部ブリッジにオベイト・ポンティックを用いた2症例
11	古田洋介	みすみ歯科クリニック	上顎前歯部にG B R を応用したインプラントによる咬合の再構成を行っている一症例
	渡辺猛士	渡辺歯科医院	抜歯即時埋入と抜歯待時埋入その適応と利点について
1	山部英則	山部歯科医院	咬合の再構成にインプラントを応用した2ケースを再考する
	前田昭浩	パール歯科クリニック	患者様へのよりよい治療を模索して。インプラントや矯正治療の利用
2	池上富雄	池上矯正歯科クリニック	前歯部反対咬合のとらえ方、考え方 ～あなたとあなたの大切な患者さんを不幸にさせないために～
	関 喜英	せき歯科クリニック	臼歯部にインプラントを用いた咬合再構成
3	坂口貴章	坂口歯科クリニック	インターディシプリナリー・アプローチにおける 診査診断の重要性
	鶴田善久	鶴田歯科医院	高齢者に対して咬合の回復を図った一症例

2008年（第10期）

ポスターセッション

今回、私たち会員の例会発表症例の中から数名のプレゼンテーションを合同例会会場内にポスター展示しております。ぜひご覧ください。

会 員	勤 務 先	演 題
添島義樹	添島歯科医院	インプラントとCAD/CAMシステムを用いた全顎的修復治療の一例
佐藤俊一郎 津田佳輝	佐藤歯科クリニック	咬合再構成におけるプロビジョナルレストレーションの重要性
鶴田善久	鶴田歯科医院	歯間離開に対する補綴的アプローチ
渡辺猛士	渡辺歯科医院	インターデシプリナリーアプローチによる咬合再構成
三村彰吾	共愛歯科医院	審美修復における歯周組織のマネジメント
森永博臣	共愛歯科医院	歯周補綴にインプラントを用いた一症例
松下哲也	松下歯科医院	歯科矯正医と連携した一症例
関 喜英	せき歯科クリニック	臼歯部にインプラントを用いた咬合再構成
渡辺裕士	株式会社 愛歯	オクルーザルメタルにおける、私の“デュプリケートテクニック”
井上亮平	ART I	顎機能に調和したセラミック修復による咬合再構成

m e m o

2008年SJCDインターナショナル合同例会in熊本

●開催日時 2008年7月19日(土) 13:00~17:30

※18:30~懇親会(ホテル日航熊本)

20日(日) 09:00~15:30

●会場 鶴屋ホール (鶴屋百貨店 東館7F)



熊本市手取本町6番1号

●お車の場合

熊本空港からタクシーで40分。

●市電利用の場合

JR鹿児島線・熊本駅下車、駅前から(2番)健軍方面行き乗車、「通町筋鶴屋前」または「水道町」にて下車。所要時間約20~25分。

●参加資格 SJCD会員のみ

●参加費 無料 (ただし懇親会費は10,000円別途)

●申込方法 各支部SJCD事務局にて一括

●ゴルフ 7月21日(月祝)熊本空港カントリークラブにて

熊本SJCD事務局

有限会社アワデント内

〒862-0933熊本市小峯丁目1-95

096-331-0567(fax-331-0577)

<http://www.ourdent.com/sjcd>

taka@ourdent.com 粟津貴昭

実行委員

大会長 / 添島正和

副会長 / 川崎俊明

実行委員長 / 吉永 修

学術企画担当 / 添島義樹

庶務担当 / 鶴田善久

渉外担当 / 立山由乗

展示・賛助会員担当 / 坂口貴章 佐藤俊一郎

広報担当 / 川口 孝 園田隆紹

記録担当 / 三村彰吾

会場進行管理担当 / 松下哲也 古田洋介

懇親会担当 / 渡辺猛士 関 喜英

ゴルフコンペ担当 / 山部英則

総合事務局 / 粟津貴昭

運営事務局 / (株)ICSコンベンションデザイン
九州支局